

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	植木, 憲二
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.12 (1952. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521201-0071

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

「經濟評論」十一月號に、「經濟學の周邊から」という編集がある。その中に、社會學者と數學者からの經濟學に對する疑問提起が印象的であつた。前者は、何故に經濟學に、今日マルクス主義經濟學と近代理論經濟學がかくも鮮かな對決性において、世界の社會科學界の關心となつたのか、といふことであつた。たしかにこの指摘は當を得ている。事實、學問の他の部門で、これ程截然と二分化され、兩者全く無縁であるかの如き觀を呈している例を知らない。他部門の人のこれが奇に映ずるのも尤もである。しかし他の指摘を俟つまでもなく、この問題は經濟學を學ぶわれわれが、眞劍に取り組まなければならぬものである。この解決なしに經濟學の進歩を求め、それは不可能であらう。その意味でも杉本榮一教授の死は學界にあつて不測の損失であつた。教授の學問内容の是非は別としても、次に後者は、主として數理經濟學に對して、單刀直入的な質問を發している。數學の名目的な利用に終り、普通のことばで述べられることを、ことさら數式に翻譯する以上にどれだけ出たのか、と。經濟學の學問的分野の擴大と、それに伴う分業化専門化の生んだむずかしい一斷面を衝いているものと受け取つた。

われわれは、このような他部門の學者の忠言に對して謙虛であらねばならないと同時に、學問意識の在り方を、常に反覆繼續して自己反省しなければならぬことを痛感した。

(植木蕙二)

昭和二十七年十一月二十五日印刷 昭和二十七年十二月一日發行	第四十五卷 第十二號	定價 七拾圓 送料 四圓
東京都港區芝三田慶大經濟學部内 編輯者 高村象平	東京都港區芝三田豊岡町八 印刷所 圖書印刷株式會社 川口芳太郎	豫約購讀料 一年分 金八四〇圓(送料共) 半ケ年分 金四二〇圓()
發行所 東京都港區芝三田三丁目 慶應義塾大學經濟學部研究室内 慶應義塾經濟學會		